

令和2年度  
劇場・音楽堂等機能強化推進事業  
(地域の中核劇場・音楽堂等活性化事業)  
成果報告書

団 体 名	公益財団法人山本能楽堂	
施 設 名	山本能楽堂	
助 成 対 象 活 動 名	公演事業・人材養成事業・普及啓発事業	
内 定 額 ( 総 額 )	13,586	(千円)
	公 演 事 業	8,916 (千円)
	人 材 養 成 事 業	1,044 (千円)
	普 及 啓 発 事 業	3,626 (千円)

(1) 令和2年度実施事業一覧【公演事業】

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	初心者のための上方伝 統芸能ナイト	2020年6月6日・6月7日・8月8日・9月26日・10月10日・11月7日・12月31日	能：「高砂」・「井筒」・「岩船」・「葛城」山本章弘 他 歌舞伎素踊：「面かぶり」中村鴈治郎 他 文楽：「艶姿女舞衣、酒屋の段よりお園のさわり」竹本銀太夫 竹澤宗助 他 ※新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため、6/6・6/7は、オンライン無料配信の他、客席50%以下に減少	目標値	840
		山本能楽堂		実績値	289
2	たにまち能	2020年7月18日・9月6日・12月6日・1月10日	能「賀茂」：山下あさの、「野宮」：山本博通、「藤戸」：森本哲郎、素謡「神歌」：山本章弘、「養老」：今村一夫 ※新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため、客席50%以下に減少	目標値	480
		山本能楽堂		実績値	264
3	光と照明による能舞台の陰翳	2020年8月18日	演目：能「井筒」照明：藤本隆行 出演：山本章弘、福王知登、左鴻泰弘、成田達志、谷口正壽 ※新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため、客席50%以下に減少	目標値	120
		山本能楽堂		実績値	60
4	とくい能	2020年7月23日・8月1日・9月1日・10月10日・2月21日	「鉄輪」・「土蜘蛛」・「羽衣」・「葵上」・「小鍛冶」 出演：山本章弘、浦田保浩、杉浦豊彦、吉井基晴、他 ※新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため、1回中止、実施回は客席50%以下に減少	目標値	720
		山本能楽堂		実績値	256
5	船弁慶三体	2020年8月9日	新作英語講談「知盛の最期」：旭堂南春能「船弁慶」 能「船弁慶」：山本章弘 文楽「義経千本桜 知盛幽霊の段より」竹本千歳太夫、竹澤宗助 ※新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため、1回中止、実施回は客席50%以下に減少	目標値	120
		山本能楽堂		実績値	46
6	神・男・女・狂・鬼	2020年11月29日(日)	「養老」、「敦盛」、「井筒」、「玉鬘」、「土蜘蛛」 出演：山本章弘、斉藤敦、林大和、守家由訓、杉浦豊彦、梅若基徳、井戸良祐、山田薫、前田和子	目標値	120
		山本能楽堂		実績値	120
7	シビウ国際演劇祭総監督キリアックによる一人芝居(仮)		※新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため中止	目標値	120
				実績値	
8	真田幸村		※新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため中止	目標値	120
				実績値	
9	オルフェウス		※新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため日程変更により、主催者変更	目標値	120
				実績値	

※ …新型コロナウイルス感染症の影響があったもの

(2) 令和2年度実施事業一覧【人材養成事業】

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	まっちゃんまちサロン	2020年8月7日・9月8日・10月6日・11月2日・12月1日	文楽：吉田玉助（文楽人形遣い）能：山本章弘（観世流能楽師シテ方） 落語：桂吉坊 能：安田登（下掛宝生流能楽師ワキ方） 狂言：善竹隆平（大蔵流能楽師狂言方）・茂山千之丞（大蔵流能楽師狂言方） ※新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため、客席50%以下に減少	目標値	600
		山本能楽堂		実績値	363
2	能活	2020年7月26日・8月30日・9月26日・10月24日・11月28日・12月20日（日）・2021年1月24日・2月14日・3月7日	井筒の巻 紅葉狩の巻 葵上の巻 お囃子の巻 催しをより楽しむための巻 養老の巻 小鍛冶の巻 羽衣の巻 西行桜の巻 ※新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため、2回中止、客席50%以下に減少	目標値	600
		山本能楽堂		実績値	351

※ …新型コロナウイルス感染症の影響があったもの

### (3) 令和2年度実施事業一覧【普及啓発事業】

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	ストリートライブ能	2020年10月21日、11月8日、11月18日、2月25日	「高砂」、「猩々」、「羽衣」 山本章弘 斉藤敦 守家由訓 中田弘美 吉井基晴 山田薫 山本麗晃 ※新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため1回中止	目標値	1,000
		原田神社、高麗橋ストリートパーク、芝川ビルモダンテラス、本町ガーデンシティ		実績値	300
2	文化の伝承 花と芸能	2021年2月27日	チェロの演奏 「バッハ 無伴奏チェロ組曲第2番ニ短調」 住野泰士 能 「嵐山」：山本章弘 ※新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため、客席50%以下に減少	目標値	120
		山本能楽堂		実績値	70
3	アートによる能案内	2020年8月8日	美術講師：井上嘉和（ダンボール作家） 演目「安達原」山本章弘、原大 ※新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため、客席50%以下に減少	目標値	60
		山本能楽堂		実績値	32
4	能と遊ぼう！	2020年12月27日	講師：山本章弘、笠田祐樹、山本麗晃 ※新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため、客席50%以下に減少	目標値	90
		山本能楽堂		実績値	50
5	高校DE能楽うたい隊		※新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため、中止	目標値	200
				実績値	
6	出前能		※新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため、中止	目標値	100
				実績値	
7	山本能楽堂・インターナショナルデイ	2021年2月26日	能「花月」：山本章弘、野口亮、林大和、守家由訓、吉井基晴 いけばなデモンストレーション：一葉式いけばな四代家元・粕谷尚弘 ※新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため、客席減少 講義：エリザベス・ネット ※新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため、客席50%以下に減少	目標値	160
		山本能楽堂		実績値	80
8	大大阪時代と芸能文化（仮称）	2021年10月24日	大阪の合理性と宗教性-富永仲基を手がかりにして- 釈徹宗 ※新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため、客席50%以下に減少	目標値	100
		山本能楽堂		実績値	30

※ …新型コロナウイルス感染症の影響があったもの

## 2. 自己評価

### (1) 妥当性

#### 自己評価

社会的役割（ミッション）や地域の特性等に基づき、事業が適切に組み立てられ、当初の予定通りに事業が進められていたか。

山本能楽堂は、大阪市を中心部の官庁街にあり、太閤秀吉が作った当時の町割りのままである大阪城の武家屋敷地区に位置し、90年以上能の普及と継承を行ってきた文化施設である。大阪は、秀吉が能の魅力に傾倒し、「見るだけ」でなく「自ら能を舞う楽しみ」を見出して以来、「嗜む文化」が形成され、その後、文楽、上方歌舞伎、落語、講談、浪曲など、多彩な上方伝統芸能が生まれ、育まれた「文化集積都市＝芸能の都」である。当能楽堂では、約15年前より、大阪市、公益財団法人大阪観光局、大阪商工会議所とともに、これらの上方伝統芸能を貴重な地域遺産として捉えなおし、この「芸能の都」の側面を広く国内外に周知し、観光集客に活かし、地域振興につなげるべく活動を続けてきた。また、大阪を訪れる観光客も、コロナ禍前は、右肩上がりに、急増しており、国際都市大阪の魅力発信のため、大阪に伝わる伝統芸能・文化を活用した事業も多く実施した。さらに、伝統芸能で社会包摂に取り組むべく、先駆的、実験的な事業も行い、可能性を開拓してきた。しかし、新型コロナウイルスの被害拡大防止のため、緊急事態宣言が発出され、イベントの自粛要請を余儀なくされ、当初の予定通りに事業を実施することができなかった。しかし「文化の灯を消してはいけない」という思いから、ガイドラインに基づき、客席数を50%以下とし、新型コロナウイルスの被害拡大防止につとめながら、できる限り公演を実施し、社会全体が疲弊する中、少しでも文化の力が心の栄養になるよう微力ながら取り組んだ。そして、今年度はコロナ禍で以下の事業を実施した。

- |                       |                |
|-----------------------|----------------|
| ① ユネスコ世界無形遺産の能楽の継承    | (13事業 46公演 実施) |
| ② 時代に生きる芸術創造の場        | (7事業 13公演 実施)  |
| ③ 「芸能の都・大阪」としての魅力発信   | (8事業 36公演 実施)  |
| ④ 豊かな文化芸術による人材育成・教育の場 | (4事業 21公演 実施)  |
| ⑤ 国際文化交流・相互理解の推進      | (0事業 0公演 実施)   |
| ⑥ 文化芸術の多様な価値の創出（社会包摂） | (0事業 0公演 実施)   |

助成に値する文化的、社会的、経済的意義等が継続して認められるか。

ご助成頂いたおかげで、コロナ禍においても「文化の灯を消さない」ために、感染症被害拡大防止につとめながら、事業を継続して実施することができた。ガイドラインに基づき客席数を設定すると、当初予定の約30%程度の客席数にせざるをえない状態が続き、興行収入が大幅に落ち込んだが、活動を何とか継続して実施することができた。客席数が減少した分、オンライン配信をおこなう等の新たな試みに取り組んだ。

・文化的意義：地域の文化遺産である上方伝統芸能の文化拠点として、多彩な演者と連携し、ネットワークを構築し公演を継続して実施することで、情報発信を行い、上方伝統芸能の振興と継承につなげることができた。

・社会的意義：敷居が高いと敬遠されがちな伝統芸能を、現代人にも魅力的な切り口や方法で伝えることで、鑑賞者やファン層の裾野を広げ、地域住民の鑑賞活動の拡大に資することができた。

上方伝統芸能の鑑賞者を増やし、上方伝統芸能全体の活性化を行い、創造活動の幅を広げることができた。

「本物の伝統芸能」により地域活性化をおこない、地域住民のシビックプライドを構築することができた。

・経済的意義：上方伝統芸能を国内外の観光集客にも活かすことで、地域の発展を支え地域の活性化を行うことを目的に活動を行っているが、コロナ禍において人の移動が制限されたため、あまり機能しなかった。

## (2) 有効性

### 自己評価

目標を達成したか。

今年度は下記の目標を指標としてかかげ、事業を実施した。新型コロナウイルスの被害拡大防止のため、どの事業もガイドラインに基づき、客席数を50%以下から約3割程度に大幅に減少し、実施せざるを得ない状況が続いたが、参加人数は少なくとも目的を達成できるよう取り組み概ね達成することはできた。しかしながら、「普及・啓発事業」の⑥、⑦の社会包摂の事業ならびに⑧⑨の国際交流の事業は、中止せざるをえない状況となり、目標を達成することができなかった。

アンケートの回収率は78%であったが、その80%以上の方から「満足した」「楽しかった」と回答を得ることができた。参加者の中に占めるリピーターの割合は約55%となり、コロナ禍以前は大阪市内からの参加者の割合が約30%であったが、今年度は半数以上が大阪市内からの参加者となった。

#### (公演事業の目標)

- ①地域の文化遺産である上方伝統芸能の文化拠点として、公演を通して情報発信を行い、上方伝統芸能の振興と継承につなげる。
- ②上方伝統芸能を観光に活かすことで、地域の発展を支える。
- ③敷居が高いと敬遠されがちな伝統芸能を、現代人にも魅力的な切り口や方法で伝えることで、鑑賞者やファン層の裾野を広げる。
- ④上方伝統芸能の鑑賞者を増やすことで、上方伝統芸能全体の活性化を行い、創造活動の幅を広げる。
- ⑤「本物の伝統芸能」により地域活性化をおこなうことで、地域住民のシビックプライドを構築する。

#### (人材養成事業の目標)

- ①能に興味はあるが、敷居が高いと思っている人への人材養成
- ②能に魅力を感じており、もっと知りたい人への人材養成
- ③他の文化芸術に興味ある人への能を通じた人材養成

#### (普及・啓発事業の目標)

- ①能を見たことがない観客層に向けての普及啓発
- ②他の文化芸術に興味がある人を能楽堂に誘導するための普及啓発
- ③能の動きや「型」、身体性に焦点をあてた普及啓発
- ④現代美術家の能に対する視点によるこどもたちへの普及啓発
- ⑤自発性を重視したこどもたちへの普及啓発
- ⑥高校に能楽師を派遣し、実演やワークショップを行うことによる教育の現場での普及啓発
- ⑦実演やワークショップをともなう福祉施設での普及啓発
- ⑧在関西総領事団と連携した、国際交流のための普及啓発
- ⑨外国人から見た日本の伝統芸能への視点を紹介し国際交流に活かす普及啓発
- ⑩能の初心者に向けたワークショップによる能の普及啓発（レベル1～4の段階に分けて実施する）

### (3) 効率性

#### 自己評価

アウトプットに対して、事業期間が適切で、当初の計画通りに進んだか。

アウトプットに対して、事業費が適切で、当初の計画通りに進んだか。

#### ■アウトプットに対して、事業期間が適切で、当初の計画通りに進んだか。

令和2年度は、緊急事態宣言の発出により、全ての活動が停止するという異常事態から始まった。4月、5月は全ての公演を中止とし、緊急事態宣言が解除された直後に、「初心者のための方伝統芸能ナイト」公演を2日間連続でオンライン配信を行った。「文化の灯を消さない」ために、急遽オンライン公演の実施を出演者と相談して決めたが、新聞各紙にご掲載頂いたこともあり、2回の公演は合計約5000人近い視聴を得ることができた。

大阪は新型コロナウイルスの感染者数が多く、他の地域よりも大阪府からのイベントの中止や制限などの要請が強かったため、状況を見ながら公演を延期または中止を行い、被害が少し収まると公演を実施するというような状況が続いた。当初の計画通りにはほとんど進まなかった。

#### ■アウトプットに対して、事業費が適切で、当初の計画通りに進んだか。

公演事業、人材養成、普及啓発事業ともに、当初の事業費より少ない事業費となった。

公演をやむをえず中止せざるを得ない状況が続き、また、演者同士のソーシャルディスタンスを確保するため、出演者の数を当初より大幅に減少するなどの措置をとったため、事業費が全体として大幅に減少した。

当初の計画通りになるよう、様々な工夫をこらし、事業を実施することを試みたが、当初の計画通りには進まなかった。

## (4) 創造性

### 自己評価

地域の文化拠点としての機能を最大限に発揮する優れた事業であった（と認められる）か。

新型コロナウイルスの被害拡大防止のため、当初計画したように事業を実施することができなかったが、様々な制約がある中、地域の文化拠点の機能を最大限に発揮するため精一杯取り組む中で、新たな連携も生まれ、これまでにない事業を実施することができた。当能楽堂は、大阪に伝わる伝統芸能の普及・啓発、情報発信に特化した文化拠点として、能をベースにしながらも、大阪で育まれた文楽、上方舞、落語、講談、浪曲等の上方伝統芸能全般の活性化を行うことで、「開かれた能楽堂」として、上方伝統芸能に携わる演者同士のネットワークを作り、当能楽堂から新たな芸術創造が生まれる役割を担ってきた。コロナ禍において、ジャンルの違う演者同士の交流の中で、様々な情報を共有し合い、お互いに勇気づける関係が構築され、さらにネットワークが強化された。

しかしながら、地域をまたいでの移動の制限がおこなわれたため、大阪以外の地域の現代アートやコンテンポラリーダンス等、他ジャンルの優れた芸術家の視点と能楽を組み合わせコラボレーション事業は行うことができず、断念せざるを得なかった。

#### (1) 公演事業について

①上方伝統芸能の多彩なジャンルの演目をショーケース的に、オムニバス上演する公演を15年以上継続して行っているが、大阪に根差した伝統芸能の文化拠点として、大阪でしかできない公演をコロナ禍においても実施し、文化の力で地域の活性化をおこなうことができた。

②さらに、「初心者の上の方伝統芸能ナイト」公演では、大名跡の歌舞伎役者の中村鴈治郎氏に初出演していただくことができ、新たな連携が生まれ、芸術創造の幅が拡張した。

③「神男女狂鬼」公演は、能の五番立ての歴史とダムタイプの藤本隆行氏のLED照明演出により、能が本来屋外で公演が行われていたことを考察する私共にとって新たな挑戦となる事業であるが、「字幕」を駆使することにより新たな工夫を加え、事業を実施することができた。

#### (2) 人材育成・普及啓発事業について

①能の普及啓発のために公共空間で不特定多数の方に向けておこなう「ストリートライブ能」の活動は、コロナ禍のため実施することが困難であったが、地域との連携の中で、コロナ禍における新たな芸術活動の在り方を地域と一緒に考え、工夫を行いながら事業を実施することができた。

②「アートによる子どものための能案内」は、ダンボールお面作家の井上氏の指導の下、子ども達が様々な鬼の面を制作し、その後「安達原」の能を鑑賞したが、コロナ禍において、子ども達が芸術活動に参加する機会が極端に減少しており、参加した子ども達が本当に楽しそうに参加している姿が印象的であった。

「文化の継承～花と芸能」公演では、一葉式いけばな五代目家元の粕谷尚弘氏を迎えて実施したが、能楽堂全体に活けられた春のいけばなに、参加者が長時間その場を離れなかったり、何度も何度も鑑賞をしたりし、芸術が人の心の栄養や癒しになることを改めて実感し、地域の文化拠点としての役割について改めて考えさせられた。



## 自己評価

地域の実演芸術等の振興など、地域の文化芸術の発展につながった（と認められる）か。

- 1、山本能楽堂は、能・狂言の専用劇場であるが、約20年近く前から、大阪市、大阪商工会議所、大阪観光局と協働で、大阪に伝わる能、狂言、文楽、上方舞、落語、講談、浪曲などの上方伝統芸能を貴重な地域資源と捉えなおし、それぞれの芸能の面白い部分のみをオムニバスに次々と上演する「初心者のための上方伝統芸能ナイト」公演を継続して実施している。古典芸能の公演は通常は数時間から半日程度かかることが多く、初めての方には敷居が高く、その魅力が伝わりにくいため、各芸能のショーケース的な公演を実施することで、上方伝統芸能の新たなファン層を構築することを目的としている。公演当日には、各芸能の本芸の公演チラシや公演情報も配布し、興味を持った伝統芸能の会場へ誘導する仕組みとなっている。これまでに約200公演を実施してきたが、「初心者のための上方伝統芸能ナイト」公演を継続して開催することで、この公演が上方伝統芸能の演者にとってのプラットフォームとなり、新たに企画や公演が生まれ、大阪の実演芸術等が振興され、地域の文化芸術の発展につながっていくと自負し、その役割を今後も担えるようつとめていきたい。
- 2、これまでに、能・狂言はもちろん、筑前琵琶、文楽（太夫、三味線、人形遣い）、上方舞、落語、講談、浪曲、女道楽、お座敷遊び、地歌・長唄等の演奏者、神楽、奇術、活動写真、声明などの伝統芸能に加え現代アート、現代演劇、ブレイクダンス、デザイナー、人形劇、華道家、茶道、着付、朗読家、クラシックの音楽家など、のべ年間約300人のジャンルの異なる上方伝統芸能の演者が出演し、交流を深め、新たな芸術の創造の場ならびに情報発信の場として機能しており、地域の文化芸術の発展につなげている。
- 3、山本能楽堂は1927年に創設された大阪市で最も古い能楽堂であり、90年以上大阪における文化振興の役割を継続して担ってきた。定期公演である「たにまち能（旧山本定期能）」は昭和25年以来継続して開催している伝統的な能の公演である。90年以上継続して能の普及と啓発に携わってきた歴史を活かし、近年は、上に記載させて頂いた通り、大阪の貴重な地域遺産である上方伝統芸能全体の発信基地ならびに普及・啓発施設としての大きな役割を担っている。伝統芸能はもともと現在のような大きなホールではなく、芝居小屋で演じられてきた。客席と舞台の距離が近く、演者の息づかいや汗が間近で感じられる空間で見てこそ、伝統芸能の良さやその表現方法や内容について理解をお客様に深めて頂くことができる。大阪は、1920年に大阪大空襲で町全体が焼けており、伝統的な木造建築はほとんど残っていない。その中で、山本能楽堂は貴重な存在であり、その場所としての機能を最大限に発揮し上方伝統芸能の普及・啓発につとめている。同時に、最新のテクノロジーであるカラーLED照明を導入する等、歴史の陰影が刻まれた空間を舞台として、最先端技術と能楽との融合にも取り組み、地域の文化振興の発展に取り組んでいる。
- 4、次代を担う子供たちへの、普及・継承事業も積極的に行い、これまでにのべ約8万人の子どもたちに能の魅力を伝えてきた。「アートによる子どもたちのための能案内」事業では、現代美術家とのコラボレーションにより、現代美術家の視点を通して、子供たちが造形遊びを行い、能の独創的な世界観を体感する事業であるが、現代美術家もこの事業を通して、能の視点を自身の作品づくりに活かすことができ、双方の活性化につながっている。
- 5、また、行政と連携した地域のまちづくりの事業や地元住民主催の事業にも積極的に参加し、大阪の文化振興に寄与している。

## (5) 持続性

### 自己評価

事業を通じて組織活動が持続的に発展する（と認められる）か。

事業を実施することで、年間を通して、事業を実施することで、地域の実演芸術等の振興や地域の文化芸術の発展に寄与するとともに、組織活動も持続的に発展することができた。今年度はコロナ禍で当初計画してた通りの事業を行うことができなかつたがポストコロナを見据え、様々な期間や団体との連携を深めることができた。

これまでの活動とコロナ禍での活動の双方が認められ、令和2年度のグッドデザイン賞、さらに大阪府・大阪市より令和2年度の「大阪文化賞」を受賞し、今後の活動の更なる発展に向けて大きな弾みとなった。

#### (事業運営について)

これまで、能楽堂の運営は、能楽研究者や能楽師の見習（内弟子）、家族が中心となり行われることが多かったが（山本能楽堂も約20年前にはそのような事業運営であったが）、演劇の企画・制作の熟練者や文化財団、規模の大きなホールの運営経験者をスタッフに迎え組織を構築・強化し、定例会議を実施し、PDCAサイクルを回すことで、機能強化され、運営が飛躍的に改善した。さらに、文化・芸術に携わる者を非正規雇用者として雇用することで、新たな視点が事業運営に取り込まれた。さらに銀行勤務を定年退職した者を経理に迎え、外部監査的確な指導を受けることで、組織が継続的に改善し、機能が強化された。さらに、職員が、芸術団体や商工会議所、NPO団体、文化庁等が主催のセミナーや講習会、研修会ならびに勉強会に積極的に参加し、組織内部でのキャリアパスに取り組んでいる。特に、創造都市ネットワーク日本の活動に参加し、全国の先駆的な事例を参考にし、事業運営にその視点を取り入れている。

#### (演者・芸術家ならびに劇場・音楽堂間のネットワークの形成)

事業を実施する中で、伝統芸能はもとより、西洋音楽、コンテンポラリーダンス、ブレイクダンス、人形劇、現代美術家、茶道家、華道家など幅広い人的ネットワークを構築し、常に新しい芸術創造の可能性を追求している。

#### (教育機関とのネットワークの形成)

事業を実施することで、活動が認められ、京都造形芸術大学、相愛大学と連携し、学生達がフィールドワークに訪れ、公演に参加する等ネットワークを形成している。また、関西大学の能楽部を指導し、後継者の育成につとめている。大阪市内の小学校、高等学校の生徒を受け入れている。

#### (経営戦略について)

年間を通じて後援会の入会の勧誘ならびに寄付者・支援者への依頼、他の助成金への申請を継続的に実施し、安定的な収益基盤をつくり財源確保できるよう取り組んでいる。事業を行い、活動に参加していただくことで、支援者への理解と、新規支援者の獲得につなげられるよう努力している。財政状況は厳しい状況が続くが、支援者の数は増加している。

#### (海外との連携/将来の人事戦略)

大阪大学大学院に能の研究のため留学してきた一人のブルガリア人ペトコ氏との出会いから、海外公演を実施し、日本と東ヨーロッパを中心とした国際文化交流を継続して実施している。これまでの8年間に、7か国、15都市で35公演を実施してきた。その中で、ヨーロッパ最大規模のルーマニアのシビウ国際演劇祭に5年連続で招へいを受け、強いネットワークを築き、昨年のコロナ禍においても日本からの5団体の一つに選ばれ、オンラインで参加を果たした。コロナ禍で現在は中断してしまっているが、海外公演ならびに海外との文化交流は今後も継続して実施し海外の人々に能の魅力を伝えるためのノウハウや、草の根的な国際相互理解を深めるための活動を、山本能楽堂の組織活動が持続的に発展するための相互作用となり、その視点をインバウンドの推進や、初心者向けの普及・継承活動に活かし、組織の持続的な発展につなげていく。